

# 芦北町総合コミュニティセンター

熊本県葦北郡芦北町



株式会社産紘設計



■建築概要

名称：芦北町総合コミュニティセンター  
 用途：中央公民館、図書館、子どもの広場  
 敷地面積：4,606.71㎡  
 建築面積：1,782.15㎡  
 延床面積：2,622.00㎡  
 階数：地上2階  
 構造：木造 一部鉄骨造  
 木使用量：606m



子どもの広場・交流ホール

### ■県産の一般流通材を活用した木造建築物

「芦北町総合コミュニティセンター」は老朽化した中央公民館、図書館、児童館の建て替えに伴い、それらをまとめて、特に次世代の子どもの育成を目的とした施設として、相乗効果を発揮できるように整備された町の新しいコミュニティセンターです。

建て替えにあたり、町産材をはじめとした県産材の活用を目的として、構造耐力上主要な部分をはじめ、木材はすべて一般流通材を使用しています。また、一部の構造をメンプレジ型の木造耐火構造を用いることで、建築物のほぼ全てを木造とすることを実現しています。

### ■町有林を活用し、木質化を図る

センターの整備に伴い、事前に町有林から木を切り出し、設計に合わせて製材加工されたものに、町から施工会社へ、スギ材・ヒノキ材を支給しています。支給された木材は、主に内装の杉板張りやルーバー材、フローリング材等に使用されています。

### ■大断面部材は重ね材を使用

一般流通材で大空間を実現するために、スギ接ぎ重ね材を用いています。120角材、150角材を垂直方向に重ねて接ぎすることで、大断面の梁・柱材を作成することができます。この工法であれば同じ熊本県内で制作が可能です。そのため、県産材が活用しやすくなっています。

### ■木育の場「木のおもちゃ広場」

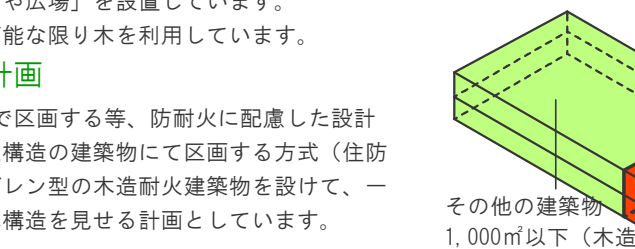
木造で木を触れるだけでなく、子どもたちが直接木に触れてそのぬくもりを感じることを「木のおもちゃ広場」を設置しています。

### ■木造で建てるための防火計画

1,000を超える木造建築物は防火壁で区画する等、耐火に配慮した設計が必要になります。本計画では耐火構造の建築物にて区画する方式（住防発第14号）を採用し、中央にメンプレジ型の木造耐火建築物を設けて、一般開架や子どもの広場の大空間の木構造を見せる計画としています。

### ■町の東西をつなぐコミュニティ施設

敷地西側には町の中心部と肥後おれんじ鉄道「佐敷駅」があり、肥後おれんじ鉄道を挟んで反対側になる敷地東側には芦北町民総合センター、スポーツグラウンド等、町の文化振興・スポーツ施設が集中しており、本施設はそれらを結ぶような施設として計画されています。常時東西を結ぶために、建物1階にコンコースを設けており、このコンコースを介して施設のエントランスへとアプローチします。内部はコンコースを挟んで北側が「子どもの広場」、南側が「図書館・公民館」となっています。入口をわけることで、同じ建物の中で動的な部分と静的な部分を分けています。



### ■町の東西をつなぐコンコース

町の東西をつなぐコンコースは建物完成後、近隣の高校の鉄道通学学生の通学路にも指定され、町民の交流の場となっている。また、この施設は町を代表する風景の中心にもなっており、芦北町の新しい顔とも言える施設となっている。

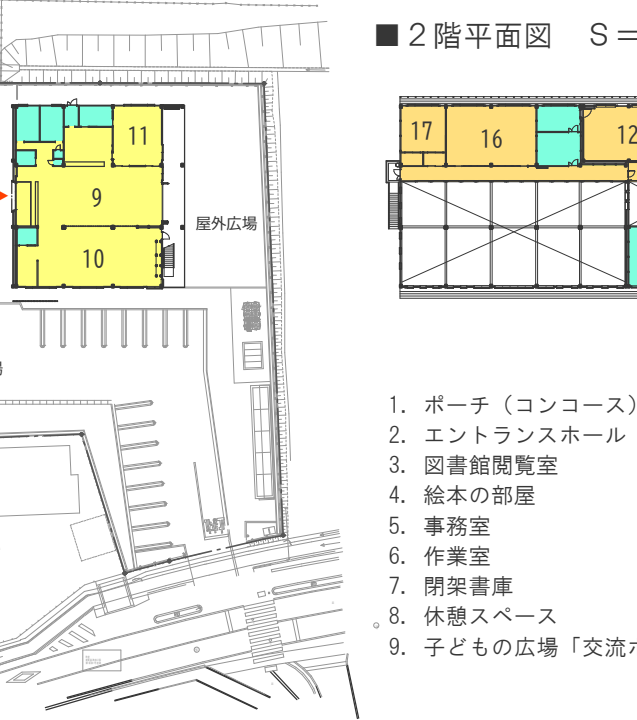


東西をつなぐコンコース

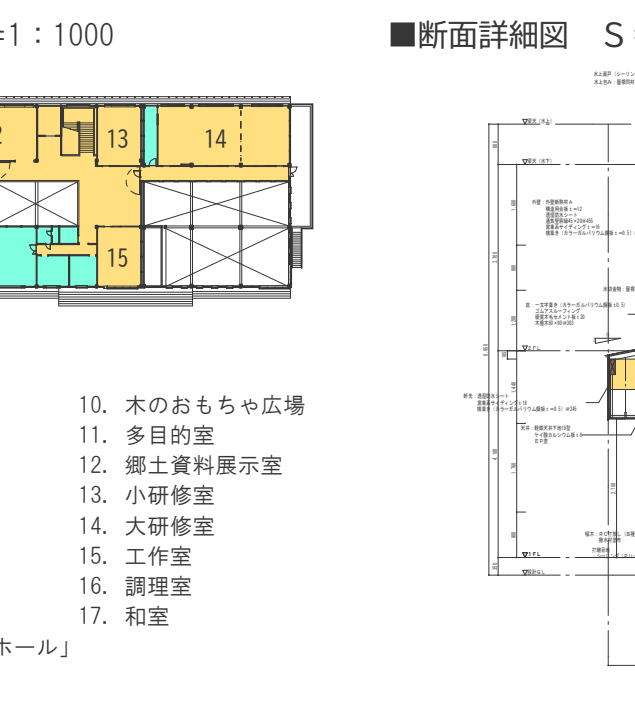
### ■1階平面図 S=1:1000



### ■2階平面図 S=1:1000



### ■断面詳細図 S=1:300



1. ポーチ（コンコース）
2. エントランスホール
3. 図書館閲覧室
4. 読本の部屋
5. 事務室
6. 作業室
7. 閉架庫車
8. 休憩スペース
9. 子どもの広場「交流ホール」
10. 木のおもちゃ広場
11. 多目的室
12. 郷土資料展示室
13. 小研修室
14. 大研修室
15. 工作室
16. 調理室
17. 和室



子どもの広場・木のおもちゃ広場



防火構造部分は木質化を図る



木のおもちゃ広場



木のおもちゃ広場



郷土資料展示室：壁面を木質化



休憩スペース：一部壁面と天井を木質化



案内板も木で作成



2階廊下から望む木の架構

その他の設計物件



五木村林業従事者住宅（五木村）



城南図書館・児童館（熊本市）



林業研究・研修センター（熊本県）